

抱かれる優しさ

抱かれる優しさ。

～部屋はいま、ナチュラルフィールドへ～

ナチュラル&エコロジーの背景には
安らぎや優しさを求める現代願望があります。

話題の“いやしブーム”をインテリアの世界で考えると
そこに居るだけで抱かれて、いやされていくような
空間づくりが、求められているのではないのでしょうか。

リラクゼーションやアロマセラピーが流行になり
そしてエコロジーを意識した環境への配慮などが
その現れです。

「いま、生活の中で何が求められているか」は
「空間演出」という形で
「素材」「色」「柄」「機能」を生活の中に上手に取り入れ
生活を楽しみ、暮らし方のエッセンスを
自分流にアレンジしていく事ではないのでしょうか。

配色の基本

配色を考える場合、まずインテリアの基礎となる床・壁・天井などの色を選定し、この色の他にどのような色を配色すれば、どんな効果が生まれるのかを考えます。

色の三属性

人間の眼で判別できる色の数は、おおよそ5000程度だと言われています。(機械を使った場合は500万程度) これらの膨大な数の色を把握しやすいようにするには、整理・分類して、体系化する必要があります。そこで色を「色相・明度・彩度」という3つの要素に分類します。

色相

白や黒、そして灰色のような色味を持たない色を「無彩色」と呼び、赤や緑等のように色みを持った色を「有彩色」と言います。有彩色は、その色がどんな色みを持っているかによって赤の系統、緑の系統といういくつかのグループに分類できます。このような色みの性質を色相と言います。

明度

色の持つ明るさ、暗さの度合いを「明度」と呼びます。無彩色の白は、色の中で最も明るく黒は色の中で最も暗いものです。そして、この白と黒との中間にいろいろな明るさの段階を持った灰色があります。有彩色でも同じことが言えます。例えば赤に白を混ぜると明るくなり、黒を混ぜると暗くなります。このように明るく、あるいは暗くなった赤は一見すると別の色になったようですが、白か黒の無彩色しか混ぜていませんので、色みには何の変化も起こっていないのです。

彩度

同じ橙でも、みかんの身のような濃い橙に見える色もあれば、うっすらと橙みを帯びて見える色もありますがこれは色みの強弱による見え方の違いとなります。この色の強弱の度合いを表すものを「彩度」と呼んでいます。彩度の最も高い色、すなわち最も色みの強い色を「純色」と言います。純色に同じ明度のグレーを少しずつ混ぜていくと、彩度の段階ができます。グレーの量が多ければ彩度が弱く、グレーの色が少なく純色に接近すれば彩度が強くなります。